

幼児期に育みたい力ー遊びの中で育つものー

茂原市立新茂原幼稚園教諭 いし い 石井 よう こ 洋子



1 はじめに

幼児教育は「遊びの中で学ぶ教育」と言われている。主体的に「夢中になって遊ぶ」ための環境設定や教師の関わりが大切である。そのために、教師は「学びにつながる遊び」となるように、日々、保育を振り返りながら実践していくことを繰り返している。

2 興味や関心を高めて遊びを発展させる

子供は様々なことに興味を持ち、不思議に思っただけでも試してみようとする。例えばある日、園庭でだんご虫を見つけて興味を持つと、毎日のように探し続ける。教師が「何を食べているのかな。」と関わり、今度は教室に置いてある図鑑を開き、大発見したかのように喜んで友達にも伝え、クラスでも飼いはじめ。教師が虫眼鏡を側に置いておくと、虫研究所ごっこが始まり、スケッチをしたり、写真を撮ったり、気が付いたことをみんなの前で発表したりする。やがて他のクラスにも知らせたいと、昆虫ミュージアムごっこへと発展させ、一人から始まった活動がクラス全体での活動へと広がっていく。その中で教師は子供の様子をよく観察し、共感したり、子供の声を聞き出したりし、適切なタイミングを見計らって援助し、子供たちの思いを実現していく。一方的に「教える」姿勢ではなく、あくまでも子供の意欲を尊重して「主体的に遊び込む」経験となるよう援助しなければ、子供の関心はあっという間に途切れてしまう。

3 学びにつながる遊び・学びへ向かう力

遊びを通して様々な経験をする中で、うまくいかない経験をすることも多々ある。大人が口を出せばすぐに解決すること多いが、

あえて伝えずに何度も試させる。「どうしたらうまくいくだろう。」「次はこれを使ってみようかな。」「友達に手伝ってもらったらどうだろう。」子供は今まで経験し学んできたことを懸命に思い出しながら、あの手この手を考えて試すのだ。見ている教師も「なるほど、そうきたか。」と、楽しくなってしまう。

子供が心ゆくまで十分に繰り返し試す時間を確保できることは、幼児教育の強みである。その結果、解決できることも、うまくいかないで終わることもある。しかし粘り強く試行錯誤し、友達と協力しながら思いを実現していく楽しさや達成感を味わった「遊び込む」経験は、次の新しい目標へ向けて主体的に頑張る力や協調性を育てていく。そういった姿勢は小学校へ進学してからも「学びに向かう力」へとつながっていくだろう。

4 心の根っこを育てる

幼児教育は、発達段階に合わせて子供たちの心にたくさんの種を撒くことだと思う。子供たちは様々な活動や関わりを通して小さな芽を出し始めている。目に見える部分（できること）は小さいけれど、地面の中で根を広く深く伸ばしていく時期なのだ。いろいろなことに気づき、興味や関心を持つようになること。なんでもやってみたいと思う気持ち。失敗しても間違えても、次に目を向けられる心。自分を大好きでいる自己肯定感や他人に対する信頼感。やがて大きく成長した幹が倒れないように支え、枝葉が伸びるのに十分な栄養を届けるための大事な根っこを、今後も大切に育てていきたい。